相馬高校令和３年度入学式

入学式は、４月８日（木）午後２時から、２月 13 日の地震後の仮復旧した第一体育館で行うことができ、保護者も同席できたのは幸いであった。入学者は普通科３クラス、108 名（定員 120）、理数科１クラス、40 名（定員 40）の計 148 名である。今年度も定員割れであった。

国歌斉唱は CD による演奏、各ホームルーム担任から氏名点呼、直ちに新しく赴任された瓜生康弘校長より入学許可がなされた。入学者代表宣誓は門馬尚汰くんであった。来賓は、前年度に引続き今回も馬城会長と PTA 会長半谷修一氏の２名のみで書面祝辞となった。最後の校歌演奏も CD であった。

第一体育館は校舎の右端
（４月１日）

祝　　辞

新入生のみなさん、相馬高等学校へのご入学、真におめでとうございます。

コロナウィルス禍の下で感染防止に気を遣いながらの一年を過ごし、見事入学を果たされたみなさんはもとより、ご両親やご家族にとりまして、例年にも増して、安堵の気持ちと感慨は一入のこととお察し申し上げます。

相馬高等学校は、明治 31（1898）年、福島県第四尋常中学校として相双地区に初めて誕生した、創立 124 年目の歴史と伝統のある学校です。

「馬城会」という名称の同窓会は、第一回卒業生 55 名が巣立った明治 36（1903）年に誕生しました。これまで２万名を越える同窓生が、全国各地、各界で活躍されております。

また、校歌は、明治 41（1908）年に誕生し、110 年以上、連綿と歌い継がれております。県内の県立高校では、最も古い校歌であると言われております。

♪　馬陵の城の　名に負へる
　　春の若駒　　勇ましく　…

で始まる校歌は、格調高く、躍動感にあふれており、これから相馬高校で共に学ぶみなさんに一体感をつくりあげ、その心を鼓舞してくれることと思います。

“木の芽がのびるのは　柔らかいから”という 相田みつを さんのことばがあります。

今日から始まる相馬高校での３年間は、大人になってからの３年とは違い、人生の中で最も新鮮で貴重な３年間です。それは、木の芽がのび、蕾をもち、小鳥たちがさえずりはじめる早春のように、心も身体も柔軟で瑞々しく、新しいものをどんどん咀嚼し吸収できる時期なのです。これからの 1,000 日が正にそうです。

一つは、相馬高校での新しい出会いを大切にしましょう。

同級生、先輩、先生や部活動などを含めて、あなたの人生を彩る一生の友ができるかもしれません。

二つ目、毎日の学習活動は、選り好みせずに、積極的な姿勢で臨みましょう。

それを継続する努力が肝心です。すると、予想もしなかった自分の可能性に気付き、あなたの人生の道筋を見つけ歩むことになるかもしれません。

三つ目は、できるだけ時間を見つけて、読書をしましょう。

作者が選び抜いたことばが詰まったいい本に出会うことです。同じ本でも、大人とは違い、十代の今の感性でしか感じ取れないものがあるのです。

これらは、辛いとき、躓いたとき、難破船となったときでも、あなたを救う羅針盤となり、燈台の明かりを見つける心の瞳になるものと確信しています。

新入生のみなさん、希望を胸に、それぞれの夢に向かって邁進してください。

馬城会会長　村 山 正 之